第41回やまぐち眼科フォーラム

日本眼科学会専門医制度生涯教育事業（認定番号：16861）

【日 時】　2024年7月25日（木）18：00～20：00
【場 所】　KDDI維新ホール
山口県山口市小郡令和1丁目1番1号
TEL：083-902-6727
【会 費】　3,000円

プログラム（※）講演順が変更となりました。

18：00～19：00
特別講演1．オキュラーサーフェス疾患アップデート2024

座長：　山口大学大学院医学系研究科 眼科学
教授
木村 和博 先生

演者：　東邦大学医療センター大森病院 眼科
教授
堀 裕一 先生

19：00～20：00
特別講演2．あらゆる眼腫瘍を駆逐する！

座長：　山口県眼科医会
会長
大西 徹 先生

演者：　北海道大学大学院医学研究院眼科学教室
診療准教授
加瀬 諭 先生

※会場にてお弁当をご用意しております

共催 / 山口県眼科医会 ルミナス・ビー ジャパン㈱ わかもと製薬㈱

特別講演1. オキュラーサーフェス疾患アップデート2024

堀 裕一 先生 ご略歴
1995年　大阪大学医学部卒業
1995年　大阪大学医学部附属病院　眼科研修医
2001年　ハーバード大学スケペンス眼研究所留学
2009年　東邦大学医療センター佐倉病院 眼科 准教授
2014年　東邦大学医療センター大森病院 眼科 教授

我々は日常診療で数多くのオキュラーサーフェス疾患に遭遇します。Common disease であるドライアイやマイボーム腺機能不全（MGD）に関しては、2019年にドライアイの診療ガイドラインが、2023年にMGD診療ガイドラインが公表され、ガイドラインに基づいた治療を行っていくことが推奨されています。

特に最近では、MGDに関する病態解明がすすみ、今回のガイドラインでも、MGDの主な病態として、「導管上皮の過角化」と「腺房の萎縮」の大きな二つのメカニズムがあることが言及されています。また、MGDに関しては新しい治療法が次々と報告されており、点眼薬ではなく、IPLなどのデバイスを使った治療にも注目されています。

本講演では、MGDを中心に、ガイドラインの解説をしながら、先生方が日々の臨床で遭遇する診断や治療に迷うオキュラーサーフェス疾患に対する診療の考え方について一緒に考えていきたいと思います。

特別講演2. あらゆる眼腫瘍を駆逐する！

加瀬 諭 先生 ご略歴
1992年　北海道札幌西高等学校卒業
1999年　鳥取大学医学部医学科卒業
1999年　医師免許取得（医籍登録　第402558号）
1999年　鳥取大学大学院医学系研究科病理系専攻博士課程入学
2002年　鳥取大学医学部付属病院病理部　医員
2003年　北海道大学医学部附属病院眼科　医員
2006年　札幌社会保険総合病院眼科　医員
2007年　学術振興会　特別研究員
2007年　南カリフォルニア大学ドヘニー眼研究所　Research fellow
2010年　日本眼科学会専門医（第16506号）
2012年　手稲渓仁会病院　主任医長
2015年　北海道大学大学院医学研究院眼科学教室　講師
2023年　北海道大学大学院医学研究院眼科学教室　診療准教授

眼腫瘍は解剖学的に、結膜、眼瞼、眼窩および眼内に発生する。すなわち、眼腫瘍を治療するためには、一般眼科学の知識が必要となる。生物学的には、眼腫瘍は良性と悪性腫瘍に分類される。良性腫瘍は基本的に多臓器へ転移し、生命に影響を及ぼすものではないが、眼腫瘍における良性腫瘍は視機能に影響するため侮れない。悪性腫瘍においては、適切な治療を行っても再発を繰り返し、遠隔転移をきたし、生命予後に影響を及ぼすことがある。眼腫瘍を治療するためには、その診断を的確に、かつ迅速に行う必要がある。そのためには、解剖学的に発生しうる各部位における腫瘍について、その特徴を理解する必要がある。眼腫瘍の治療は、外科的治療が主体となる。結膜腫瘍を治療するためには翼状片手術を習熟する必要があり、眼瞼腫瘍・眼窩腫瘍は眼瞼内反症、眼瞼下垂症手術を、眼内腫瘍手術は網膜硝子体手術を熟練する必要がある。したがい、眼腫瘍の外科的治療は、究極の一般眼科学の外科治療の修練が必要となる。眼腫瘍の鑑別診断としては、炎症や変性疾患の知識も必要である。眼腫瘍の診断、治療方針、病態理解においては、眼病理学の知識が重要となる。本講演では、眼部に発生するあらゆる代表的な眼腫瘍の診断・治療について概説し、その実臨床における駆逐への戦いの例を提示する。そのためには、一般眼科医には刺激となる画像も含まれることをご容赦いただきたい。